

ISS100 異文化コミュニケーション

1年 3,4クォーター

担当教員 Ivan Lombardi、Walter Tsushima、Wayne Malcolm

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 月曜日・4時限

授業概要

このコースは、異文化コミュニケーション（または異文化間コミュニケーション）の入門コースであるが、この分野の主要トピックをいくつか選び、それらを通して授業を進める。このコースの目的は、人間の文化の多様性に興味を持つ学生に対して、文化的自覚や他人への尊敬心を高めることである。宗教的、社会的、民族的、教育的に異なる背景を持つ人々からなる場で起こるコミュニケーションの過程や問題について学び、アイデンティティとは何か、それはグローバル社会とどのように影響し合うのかについて考察する。

到達目標

学生は以下のことを行う：

1. 異文化コミュニケーションにおけるいくつかの重要な概念についての基本的知識を習得する。
2. コミュニケーション、文化、言語間での相互作用について学ぶ。
3. 文化が人の世界観にどのような影響を及ぼすか批判的に評価する。
4. 異文化に対するステレオタイプ、神話、想定を疑問視する。
5. グローバル社会において基本的な役割を果たしているいくつかのトピックを選んで、それについて議論する。

教科書・参考資料等

各クォーターの最初に、クリティカルリーディングのための読み物を配付する。授業に必要な追加資料は毎週配布する。

授業の方法

この授業はワークショップ形式で行い、授業への積極的な参加が求められる。毎週担当教員が新しいトピックを導入するきっかけを与え、課題の読み物の内容と、学生の個人的な経験、知識および想定を結び付ける手助けを行う。学生にはクラス内でのディスカッション、学習日誌の作成、少人数のディスカッショングループで学習内容を発表することが求められる。

成績評価

出席と授業への貢献が強く求められ、評価の際に考慮される。課題と研究を着実にを行い、学習日誌を付けて、授業と授業の間に考えたことやその間の学習成果について自由記述することが必要となる。学習日誌は、各クォーターの最後に担当教員が評価する。セメスターの最後の授業では、授業で議論した任意のトピックについてグループでプレゼンテーションを行う。

成績

- 25% グループプレゼンテーション
- 25% 課題と小テスト
- 25% 学習日誌
- 25% 出席とクラスへの貢献

授業スケジュール

1 週目：異文化コミュニケーションとは何か

オリエンテーションと導入。異文化（または異文化間）コミュニケーションの研究、その研究目的と調査方法。

2 週目：コミュニケーションと文化

文化を定義する。それが人間の行動とアイデンティティをどのように形成するか、様々な文化の中で、またその文化間でコミュニケーションがいかに多様であるのか考える。

3 週目：言語と異文化コミュニケーション

文化間コミュニケーションにおける言語の役割について論じる：言語と文化の間の相乗効果、言語がいかに人々を融合・分離させるか、通訳・翻訳の難しさを文化的面から考察する。

4 週目：非言語コミュニケーション

ジェスチャー、対人距離、動き、パラ言語と沈黙、人の帰属を異文化の視点から概観する。

5 週目：ステレオタイプと偏見

ステレオタイプと偏見の概念を論じる：それらがどのように形成されるか、日常生活やメディアにおけるそれらの影響の度合い、コミュニケーションに及ぼす影響、個人レベルでそれらをどのように克服するかについて。

6 週目：異文化コンフリクト

異文化間コンフリクトの本質と程度を理解する。これが文化的価値からどのように生成されるのか。効果的に対処するための方法について議論する。

7 週目：移民と文化変容

国内および文化の境界を越えた歴史的な移民の波について。移民に起因するいくつかの現象：コミュニケーション問題、カルチャーショック、適応、文化変容など。

8 週目：グループ発表

第3クォーターで議論したトピックに関連するグループプレゼンテーション

9 週目：アイデンティティとは何か

アイデンティティとは何かを見抜く。コミュニケーションのやり取りでどうしても出てくるアイデンティティと日常生活の文脈におけるその役割について。

10 週目：アイデンティティと言語

アイデンティティの言語への影響、言語のアイデンティティへの影響について。この影響によって異文化コミュニケーションにはどのようなシナリオが描かれるのか。

11 週目：ジェンダーとセクシャルアイデンティティ

ジェンダーアイデンティティに対する文化的概念の役割、文化内および文化間で異なる性とジェンダーの認識、ジェンダーとセクシャルアイデンティティがコミュニケーションスタイルに与える影響について議論する。

12 週目：年齢のアイデンティティ

文化的文脈において、人はどのように年齢相応の行動をし、相応の衣服を着て、振る舞うのかといった慣習を確立する仕組みについて議論する。自分自身や他の世代に固有の価値観や哲学についても扱う。

13 週目：人種や民族のアイデンティティ

民族アイデンティティに関して論じ合う。それが生まれた起源、その流動性、コミュニケーションに与える影響、帰属意識に対する洞察、民族アイデンティティを形成する共通の歴史観や伝統観についての洞察。

14 週目：宗教のアイデンティティ

宗教が多くの人々の文化、価値観、アイデンティティにどう影響するか、その本質について議論する。また宗教がしばしば他の社会的アイデンティティ（国家的、民族的アイデンティティなど）とどのように結びついて、異文化間コンフリクトを生み出すのかについて考察する。

15 週目：国家のアイデンティティと地域のアイデンティティ

近年の歴史の例から市民権と帰属意識の問題を取り上げる。地理的なサブグループへの帰属意識がコミュニケーションにどのような影響を与え得るか。

16 週目：グループ発表

第4クォーターで議論したトピックに関連するグループプレゼンテーション

事前・事後学習

-
- ・予習：参考図書の該当する章を予習してくる（1時間程度）。
 - ・復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1時間程度）。